

事業概要

株式会社大平洋ガスセンター（以下、PGC）は、大平洋金属株式会社、株式会社パシフィックソーフ、および大陽日酸株式会社の3社が大平洋金属株式会社に工業ガスを供給する目的で1989年11月に設立した会社です。

その後、業容の拡大により、八戸臨海工業地帯への酸素ガスのパイピング供給、液化装置による液化酸素、液化窒素の製造等を行っています。



環境負荷低減の取り組み

PGCは、空気を原料に圧縮ガスや液化ガスを製造しています。圧縮ガス製造時に大型の圧縮機を用いるため、年間約3,000万kWhの大きな電力を使用し、省エネ法の第1種エネルギー管理指定工場となっています。そのため、全社を挙げて省エネに取り組む、毎年、年度初めに「省エネルギー推進年間目標」を設定し、目標達成に向けて省エネルギー

活動を推進しています。

環境負荷低減の取り組みとして、圧縮ガス製造時の電力のロス低減①と効率的な設備運用②を行っています。①は、設備の安定操業により、過電流による電気の遮断を防止し再起動電力をゼロにする、②は、需要に合わせた効率的な運用によりエネルギー原単位の向上を図る、という活動を行っています。また、ユーティリティのロス削減として、凍結防止のためのスチーム使用量の削減、シールガス使用量の削減にも取り組んでいます。そのほか、空調・照明の節電にも取り組んでいます。

化学物質の管理としては、酸素の脱脂に使用する



空気圧縮機



ガス製造設備



株式会社 大平洋ガスセンター
製造課長 谷 昌昭

洗浄用フロンの管理を行っています。酸素を製造する際、酸素に油分が含まれると引火の危険性があり、脱脂の工程は必須となります。そのため、洗浄用フロンを、管理のもと最小限で使用しています。

廃棄物に関しては、設備工事や装置類の部品交換で発生した廃棄物を分別し、鉄くず等の金属類についてはリサイクルしています。

品質管理の取り組み

PGCは、品質マネジメントシステムを構築し、2003年2月にISO9001の認証を取得しています。ISOに基づき品質管理を徹底するとともに、継続的な改善を行っています。

具体的な活動として「品質トラブル、供給障害0件による顧客満足度の向上」を目標に、ガスの成分分析を徹底し品質を維持するとともに、成分の分析装置の校正についても力量を認定された社員のみが携わることで、品質確保を強化しています。

その結果、2014年度においても、品質トラブル、供給障害の発生は0件であり、顧客満足度調査においても問題はありませんでした。



制御室における操作の様子

労働安全衛生および防災に関する取り組み

労働安全衛生に関しては、月1回全社員が参加する保安会議を開催し、安全衛生推進者から安全衛生に関する周知を行い、啓発しています。防災に関しては、毎年2月に地震・津波の際の対応について社員に教育を実施するとともに、毎年3月に地震・津波避難訓練を実施しています。

上記の取り組みや日頃からの社員の心がけにより、会社設立より無災害を継続し、無災害記録を8,765日（2015年3月末日現在）に伸ばしています。

無災害記録は事務所入口に掲示するとともに、保安会議においても周知し、社員の意識向上を図っています。



無災害記録表

今後の方向性

私達の事業は、事故を起こさないという事が最も重要です。事故は長期にわたってガスの供給を止めることにつながり、お客様にもご迷惑をおかけするとともに、大きな無駄にもつながります。設備や装置の故障については早い段階で処置し、事故につながらないよう作業に取り組んでいます。

また、運転を効率的に行うことで無駄を減らし、環境負荷を低減していきたいと考えています。そのため、お客様とのコミュニケーションを充実させ、お客様の操業状況を把握し、それに合わせて生産を行う取り組みを進めています。

今後も、安定供給を確保しながら、お客様のご要望に合わせて効率的な生産に努めていきます。



大平洋ガスセンターのスタッフ